

花巻市社会教育委員会議（会議録）

日 時 平成28年1月13日（水）午後2時00分～午後4時00分

会 場 花巻市生涯学園都市会館 3階第2・第3中ホール

出席者 委員出席者 15名 石橋恕篤委員（議長）、市川浜委員（副議長）、紺野盛委員、福盛田弘委員、佐々木勝男委員、小原幸子委員、紺野佳子委員、木村直樹委員、安藤聡子、佐藤公一委員、伊藤晴二委員、佐々木繁夫委員、藤本眞津子、門馬優子委員、菊池清委員

委員欠席者 4名 高橋啓悦委員、佐々木隆樹委員、尾美裕功委員、佐々木さつき委員

市側出席者 5名 市川生涯学習交流課長、菅原同課長補佐、同課小原主任主査兼芸術文化係長、同課上野生涯学習係長、同課菊池主事

報道機関 0名

傍聴者 0名

次 第 1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 第二期花巻市生涯学習振興計画（素案）について

4 その他

5 閉 会

1 開会

（事務局：菅原補佐） それではただいまから平成27年度第3回花巻市社会教育委員会議を開催させていただきます。

2 あいさつ

（事務局：菅原補佐） はじめに、市川清志生涯学習交流課長よりご挨拶を申し上げます。

（事務局：市川課長） 皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。本来であれば生涯学習部長がご挨拶申し上げるべきところではございますが、平塚市に賢治ゆかりのばらを贈呈するというということで市長と現在上京中であり、私がお挨拶申し上げます。今日は、今までアンケートと皆様からのご意見等をお聴きしたところを踏まえまして、素案を作らせていただきました。それについて、率直なご意見を賜りたいと考えております。今日の皆様からのご意見を踏まえまして、修正をいたしまして、今月末からパブリックコメントをホームページ上でもやりたいと考えております。それを1ヶ月間、2月末くらいまでと思っておりますが、そのあとに再度皆様方にお集まりいただきまして、最終的に案を決めたいと考えております。1ヶ月間パブリックコメントがございますので、いろいろな所で皆様方も、市民の方々からのご意見に触れる機会もあると思いますので、今日だけではなくご意見を私どものほうにいただければ大変助かります。よろしく願いいたします。

（事務局：菅原補佐） 続きまして、石橋議長様よりご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

(石橋議長) 寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は議題として出ておりますけれども、花巻市生涯学習振興計画(素案)というふうになっております。生涯学習というのはいったい何であろうか、これはもういただいた資料といいますか素案の中にも出ておりますけれども、人が生涯にわたり学びそして学習活動を続けていくというようなことなのかなと要約すればそういうふうに思っております。教育というのは、私たちの年代でありますけれども、教わるものという考え方が主だったのではないかと思います。したがって、先生や親の指導の下に学習をするのだというふうなものです。これも従来のタイプだったろうと思います。最近ではですね、自らデザインをしたとか、自ら学ぶ、あるいは自分で学ぶというような行為も教育の本来の姿ではないかというふうな理解が生まれてきました。このことはですね、子供ばかりじゃない成人についてもあてはまることなんだというふうに言われてきております。こういうふうなことから、人は自分のキャリアを改革したり、あるいは趣味として、あるいはライフワークとして新しい事柄を学ぶ、あるいはボランティアとして地域活動をしたり、持続的に学習活動を通じて自らを高めるといことは、価値があることだと一般的に理解されるようになってきたようでございます。これから委員の皆様のご意見を拝聴することとなりますけれども、本日は生涯学習に関する計画が議題となっております。どうぞよろしくご協力をお願い申し上げます。

3 議事

(事務局：菅原補佐) ありがとうございます。それでは協議に入らせていただきたいと思います。協議の進行につきましては、議長をお願いいたしたいと思います。石橋議長さんよろしくをお願いいたします。

(石橋議長) それでは只今より議題に入ります。第二期花巻市生涯学習振興計画(素案)となっておりますけれども、市の方から主旨説明をお願いいたします。

(事務局：市川課長) それでは、あらかじめ資料をお送りしていたものでございますが、第二期花巻市生涯学習振興計画(素案)についてご説明させていただきたいと思います。

～ 事前配布資料(計画素案)について説明 ～

皆様からご意見、ご指摘等ございましたなら、よろしくをお願いいたします。

(石橋議長) ありがとうございます。今議題について説明がありましたけれども、ご質問、意見を申し上げる方がございましたなら、手を挙げてお願いいたします。

(伊藤委員) 前回都合があつて欠席したのでよく理解しないまま質問いたしますが、計画策定の主旨、最初のところですが、10年間、生涯学習の計画を作つてやってきたわけですが、この10年間の中で成果と課題は何なのかをまずお聴きしたいと思います。

(石橋議長) 今、成果と課題ですね。それについて教えてほしいというお話でした。それについていかがでしょうか。

(事務局：市川課長) 前回、これまでの総括についてお話させていただきました、成果指標というものをかなりの数で設定しております、これが達成している達成していないというのをご説明させていただいたところでした。ほとんどが目標は達成しているというふうに説明をしたのですが、数値で見ますと目標値を達成したけ

れども、後半数値が落ちてきているというのをごさいますて、一概に数字を一回クリアすればそれでいいかと言えそうでもないという話もさせていただきました。全体を見ますとほぼ目標値は達成しているのですが、達成できていなかったというものがございました。講座部門ですと、どうも参加者が減ってきているようなものがあるというような点から、ニーズやライフスタイル、つまり時間がちょっと合わないもの、ニーズに合っていない講座があるのではないかと検討しなければならないと考えており、そこは書いたつもりであります。あと、前回の計画の中では、かなり生涯学習以外の部分の指標もありまして、前回説明させていただいた中では、うまくできていなかったというものもあつたと思います。そうした中で今回ご説明いたしましたけれども、課題としては情報発信と時代のニーズにあつた講座の開設、地域の生涯学習の支援、地域に限らないのですけれども、支所単位でやるようなものも支援していくというようなところを強化していきたいと考えているところでございます。

(石橋議長) 今回の回答で伊藤委員さんよろしかったでしょうか。ほとんどの目標は達成したというようなお話、それから細かい点についての反省点を披露されましたけれども。

(伊藤委員) プラスしていいですか。実はうちの地区の振興センターの生涯学習の担当者に聞いてみたらですね、いわゆる老人大学の参加人数が激減しているんですよ。びっくりして何が原因なんだと。半分とは言わないけれども、3分の1以上は昨年度から減っているんです。何なのかと。彼も初めて担当したのでわからないということなので、彼に話をして他の団体の分析を依頼して数字を出してもらったのですけれども、それを見るとやはり微減している、減少傾向にあると。ということは、このままではいけないと。何が原因なのかというのをまず掴む必要があるだろうと。今まで取り組んできたことは何が問題だったのか。それがわからないと次への方向性が出てこないの、それが一つ彼が悩んでいる点なんです。だから今私が質問したのは、この10年間で何が成果で何が課題なのかを明確にしていけないと次の手を打てないだろうというのがまず1点です。それからもう一つが生涯学習の最初の総合計画の1頁目の図を見ると3つありますよね。「自主的学習の推進」と「青少年の社会教育」と「国際都市の推進」。今までは、確か青少年の社会教育は前面として3つの柱の一つとして出ていなかったような気がするし、国際都市の推進についても、今まではあまりなかったような気がするんですよ。それがボンと大きな柱になってきたのは、何か今までの10年間の反省にもとづいて出てきたのか、その主旨がちょっとわからなくて質問したんです。

(紺野(佳)委員) 関連してなのですけれども。10年間の反省に基づいて新しい計画を考えたというわけなのですが、1頁の花巻市まちづくり総合計画の色で書かれた図は大変整理されていてわかりいいんですけども、今伊藤さんがおっしゃったように3本柱になった理由、それから、ひとつ前の「3-1 子育て環境の充実」とか「3-2 学校教育の充実」とかいう項目の5つが、前は生涯学習の推進計画の中に第1期のときは、それには含まれていたんだが、今度は整理された形で生涯学習の推進のところだけの資料、反省に基づこうということなのであればどういう反省なのかということをお聞きしたい。

(石橋議長) 関連質問でございましたけれども、それと伊藤委員さんの疑問といいますか、それについてお答えいただきたいと思います。

(事務局：市川課長) 伊藤委員さんおっしゃるとおり、高齢者学級開催事業というのは指標が未達成のものなんです。これが唯一とっていいくらい。これは実は19年度から27年度の設定で、19年度が一番多くて段々

減ってきているんです。のびて減るというのではなくて、ただ単に減ってきているというのがあります。やはり前年度と同じ企画をしているのが見受けられます。それがニーズに合ったかどうかということがあろうかと思えます。参加している人というのは、同じ人が参加している。また高齢者の方が減ってきている、というのが考えられると思います。そこはまだ分析まではいっていないのですが、健康づくりですとか、人を呼べるようなものを加えてやっていきたいと考えておりますし、そういう意味合いからも本年度までは、市の事業として地域の高齢者学級をやっておりますが、来年度からは地域が主体となってコミュニティでやっていただくと。つまりコミュニティに則した事業を市と一緒に相談しながら支援しながらやっていきたいというふうに考えております。

あと、ご指摘のありました生涯学習振興計画の部分の「自主的学習の推進」、「青少年の社会教育」、「国際都市の推進」というような書き方をしているのはなぜかというところがございますけれども、平成26年に花巻市まちづくり総合計画というものを作りまして、この中で分類をした分類がございます。これが花巻市の一番の計画となっております。その計画では「しごと」分野、「くらし」分野、「人づくり」分野、「地域づくり」分野、「行政経営分野」の5つに分かれております。これは26年度から35年度までの計画として設定をいたしまして、その3「人づくり」分野の中に「子育て環境の充実」「学校教育の充実」「生涯学習の推進」「スポーツの振興」「芸術文化の振興」と5つに分類をしております。それらは、総合計画審議会や、市民の皆さんの意見を聴いて決めたもので、今回教育振興基本計画でもこの5つの、3に関する部分を全部を網羅した計画を教育会議などで策定しているところでございます。私たちが携わる部分は、この「3-3生涯学習の推進」という部分が主なものというふうに考えております。それで、3-3として総合計画に書かれている部分が、生涯学習で、自主的学習の部分、青少年の社会教育の部分、国際交流、国内交流も含めてですが、人づくりの部分の生涯学習に関する部分ということで「3-3生涯学習の推進」という分類を平成26年の段階で設定したものでございます。したがって前の計画はこの分類に関係なく生涯学習振興計画を作っていたものですから、ちょっと前の分類と今回変わってしまったというところもございます。より細分化されたというようなイメージですが、生涯学習と青少年と国際交流、これを主に今回の計画の中に明確に書いていきたいというものでございます。

(石橋議長) ありがとうございます。伊藤委員さん、紺野委員さんはそれでよろしいでしょうか。それでは佐藤委員さん。

(佐藤委員) 1点だけ質問なのですが、今お話しされた3つの分類と6頁の施策の方向は文言が違うのですが、これは一致させなくてよろしいのですか。あの社会教育という言葉があるので、あえてこういうふうにしたのかなというふうにも見たのですが、基本的にはここが一致なくていいのかなと。

(事務局：市川課長) そうですね。1頁の図の生涯学習振興計画の下の分類は、総合計画の見出しをそのまま使ってしまったので、今回の計画に合わせて変えたいと思います。

(石橋議長) 変更で書き換えたいということでございます。他にご意見はございますでしょうか。

(小原委員) 10頁なのですが、青少年の健全育成の推進というところで、非行を防止するというお話がありましたけれども、この間成人式がございましたね。その時に出席されていた方も多かったように思いますが、実行委員会形式でなされた結果だったのかなと思いますが、大変すがすがしくてよい成人式だ

ったと思います。大声を出す人もいなくて、お酒は持っている人もいましたけれども、そこは飲んで暴れるというようなことではなくて、よかったなと思っています。実行委員の人たちはいっぱいがんばったんだなあと考えております。それから私が質問したいのはですね、生涯学習施設の充実、利用促進という中に、生涯学習という名前がつくのは、まなび学園と石鳥谷生涯学習会館なのですけれども、東和と大迫というのもあるわけですね。東和の問題は、コミセンって今言っておりますけれども、そこがこの4月で耐震関係で取り壊すということになっておりますとお聴きしました。平成28年度から32年度までの事業が展開される中で、私たち東和町民はどこに行ってもどうすればいいのかとか、ここに来るのも一つの選択肢ではあるんですけども、そのところ少しだけご説明いただければと思います。

(石橋議長) 小原委員さんの質問でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局：市川課長) 東和のコミュニティセンターが、耐震の関係で使えないということは、私も聞いておりますけれども、その後、どういう計画でやっているかということは私もわかりません。生涯学習についての講座などは引き続き、ここと石鳥谷の会館、それ以外に大迫と東和でも、つまり4地区でも市直営で開催していきたいと考えておりますので、当然、福祉センターなりで今のところはやらせていただくことになると思うのですが、例えば図書館でもやることはできると思います。そこは東和の総合支所と相談しながら、やっていきたいと思っております。

(石橋議長) ありがとうございます。他にご質問等ある方。

(紺野(佳)委員) 1頁の計画策定の主旨のところでは生涯学習の成果を適切に生かすことのできる社会の実現を目指し10年間やってきたわけですね。そういうときに具体的にそういう社会の姿というのはどんなことだったのかなど。こんな社会だとはつきり言えないものなのではないでしょうか。どうなのでしょう。

(事務局：市川課長) この表現は、3頁の生涯学習の理念、教育基本法第3条の中に「あらゆる機会あらゆる場所において自ら学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」、これは国が理念として平成18年に定めたものでございます。この時の国の考え方は、生涯学習によっていろいろな社会に、生涯学習を学んだ人たちが社会で生かされていく、あるいはその資格等を生かしているいろいろな職業についていけるとか、スキルアップができるとそういうのを目指していたことだったと思います。平成18年から、10年経っているわけですが、それがこの文言のとおりなっているかという、疑問があるかとも思っております。ただ、花巻市の生涯学習の中では、実際に講座を受けられた方々の中から、出前講座や市民講座で講師になる方を募集いたしまして、毎年10名ほどの方が新たに講師として活躍されているということがあります。成果を生かしていけるように考えながら募集してやってきたところでございます。あまり大規模ではないのですけれども、各方面で何らかの形になっていると思いますし、学んだことで地域が活性化することもたくさんあると考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。よろしいですか。

(紺野(佳)委員) その出前講座の講師が学ぶことによって新しく生まれているということは、大事なことではないかなと思います。私はこういう社会がそうなのかなと自分なりにとらえていたのが、ここでまなび学園祭があります。ここで学んだ方々の発表の場なのですが、そこに集まる人々が作品を提供した人々ばかりでなく、市民の方々が非常に興味を持って集まってきている、それからそこでの会話を聞いていると大変建設的な話が交わされているし、前向きだし、私もこういうことをやってみたいというそういう雰囲気になっているので、そういう場があるということは非常にいいことなんだなあというふうに感じております。ですから、市内いろいろなことを生涯学習に取り組んでおられる方々、このまなび学園祭ではおこなっていないけれどもいろいろなところで交流したり発表しあったりするということも大事なので、ぜひそういうところにも目を配っていただいて、もし支援できるものならばしていただければと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。

(佐々木(繁)委員) 5頁と8頁に関連するんですが、来年度から生涯学習についてはコミュニティということが出ているのですが、私もコミュニティの事務局を4年程やったわけなのですが、これはとってもいいことなんだと思います。ただ、具体的にどの程度の関わり合いをするのかということをお聴きしたいと思います。例えば、地区でコミュニティ担当が一人になると思うのですが、多分研修を受けるときには本庁から推進監が来たりするかと思うし、あと、地域の生涯学習については地域の独自性あるいは主体的にというふうに入ってくると思うのですが、なかなかどれくらいの関わり合いを持つとか、継続した研修なのか、あるいは生涯センターに講座にシリーズで学ぶとか、あるいは実施した講座についてポイントとかですね、どの程度深く関わり合いながら指導あるいは連携するのかということをお聴きしたいです。

(石橋議長) ありがとうございます。コミュニティとその関わり合いについてどの程度なのかというご質問でした。それに対してお答えをお願いいたします。

(事務局：市川課長) 27のコミュニティ会議、地区がありまして、地区によって生涯学習が盛んな地区とそうでもないところもございます。もう私たちに任せてもらっていいよ、といってくれるところもあれば、何をしていたらいいんだ、というところもございます。そういう点を、市の職員がコーディネーターといいますか支援していきたい。できないところは本年度と同じような形を一緒にやっていきたい。来年度はまず支援をしていきたいと考えておりますが、もう自分たちでできるというところは、地域が目指す方向へ支援しながら進めたいと思っております。また研修では、そういう先進のところを他に紹介したりとか市でしていきたいと思っておりますし、総合的なところ専門的部分につきましては、県のご協力をいただいて専門的な方に企画など指導していただきたいと思っております。来年はまずやってみないとわからないという部分もあります。地域の人材が地域の皆様一番不安に思っているところなので、その人材がいるところはもっと高めてもらったり増やしてもらう。いないところもそれなりに相談しながら刺激しあって地域づくりに生かせるようにやっていきたいと考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。佐々木委員さんよろしいでしょうか。他にご質問ある方。

(門馬委員) 生涯学習の基本施策なんですけれども、来年度からよりいっそう支援を強化するということが喜ばしいことだと思っております。ただ、支援の強化ということなんですけれども、行政と市民との協働という部分を私は特に強調していきたいなと思っておりますが、例えば一番身近にある東和でいえば図書館が市民に近い位置にあると思うのですが、トップの方によっては、市民がすごく動きやすいとか動きにくいとかいうことが目に見えてあるものですから、より市民の側に立っているいろいろな便宜を図ってくれると非常に盛り上がる、そうじゃない場合はちょっと低迷する、そういうことが目に見えてあるものですから、市民との協働意識というものをやはり上に立つ方たちにはもっていただきたいなと思います。いろいろきまりを全面に出して堅苦しく市民に接することによって市民の学習意欲は沈滞しますし、そうじゃない場合はもっともっと可能性を広げることになると思いますので、市民との協働の意識をいつももっていただくようにしていただけたら、より市民の側にとってはいいのかなと思います。既存の生涯学習の自主グループなどをやっておりますと、柔軟に団体のためによりやり易くやっていただける場合と扉を閉ざしてしまうような場合と大きく分かれるようなことを感じたことも経験としてございますので、より開かれた生涯学習の場になっていただきたいなと思っております。質問ではございませんが、そういうことを意見としてお願いしたいと思っております。

(石橋議長) 今のご質問は要望というような形でよろしかったでしょうか。何かコメントはございますか。

(事務局：市川課長) 人によってちょっと対応が違ったりということは、やはり無いようにはしたいと思うんですけれども、なかなか難しい部分ではあるとは思っています。8頁で自発的・主体的学習活動の支援として相談体制も充実していこうという、充実というような書き方をしておりますし、地域や支所単位での生涯学習など、特に来年度から地域のコミュニティとは完全に協働という考え方、地域主体でありますので一緒にやっていこうというスタートを切りますので、そのあたりは当然私どもも協働意識を持って接していきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

(石橋議長) ありがとうございます。市側からのコメントでございました。他にございますか。

(藤本委員) 要望というか場違いかもしれませんが、青少年の非行防止のところですね、できれば、中高生のデートDVの啓発みたいなものをちょっと入れていただければいいかなと思っていて、要望みたいなこととお話ししましたが、この課で取り入れるべきものなのかちょっと考えが浅はかですけれども、そういったところもちょっとお考えいただければうれしいかなと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。今の要望でございましたけれども、何かコメントをいただけますか。

(事務局：市川課長) 今、実は花巻市の男女共同参画基本計画という計画も本年度策定しております、この男女共同参画基本計画は総合計画の次にくるような重要な計画です。おそらくその中で当然書かれてくる内容だと思われま。青少年の非行の部分に入れるかどうかについては男女共同参画の方と相談したいと考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。他にございますか。

(菊池委員) 2つあります。1つ目は、情報発信のことなのですが、先ほど紙の媒体を増やすというふうにおしやっただんですが、今、紙を減らす傾向にあるやに聞いていますが、この点についてどのようにするのかということです。実はインターネットと広報といろいろあるのですが、インターネットを見ていますとこの資料でもそうですが、約10%の人しか利用していないということで、そういう環境にある人が実はあまり多くないのではないかとことを前から課題にしてあったように思います。それで、紙を本当は出したいのだけれども、区長さんや渡す人の大変負担になる重荷になるということで、段々そういう紙を減らして周知しましょう、広報に全部しましょうということになったのですが、それをまた紙に媒体を増やすということになるのかどうかということ1つと、それから、いただいた前の計画にもあったんですが相談体制の整備ということがあります。今回も相談体制の充実を図る、そして県立の生涯学習推進センターと連携し、等々の記載がありますけれども、今の相談体制、前もありましたので、たぶん今もあるのだと思いますが、その相談体制がどうなっているのかということと、その相談内容とか今まで研修した成果等々を教えていただければと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。今、情報発信のお話で紙媒体を増やすということなのだけれども、可能なかどうか、それから相談体制の問題についてその内容についてあるいは現状どうなっているのかなというようなことの質問でした。これについてお願いいたします。

(事務局：市川課長) 紙についてはですね、一時期、広報に載せながらもう一つチラシがあったり、区長さんとか班長さんになった方が配るものが多すぎるといような状況がありました。それで市から伝えるものは広報に集約しましょうということでやってきたところです。ただ今回のアンケートを踏まえると、やっぱり足りない部分があるのではないかとこのように考えておりますので、そこは広報ばかりではなくて、コミュニティで出すコミュニティだよりもあります。そういうようなものを利用しながら各地域には重点的にとかお願いをすることはできると思いますし、あと、学校を通じて生徒を対象とするものは、小学校5年生6年生にだけお願いするとかですね、そういう今まで以上の気配りといいますかポイントを絞ったようなやり方はできるのではないかなと考えています。あと、相談については、相談体制は現在この会館で基本的に相談は受けておりますし、石鳥谷の会館でも受けている形、各支所と当然当課もということでございます。例えば何かをやりたい、こういう活動をやりたいのだけれどもどこかサークルがありませんかとかいう相談とか、去年は日本舞踊を習う人が少なくなってきたのでボランティアで少し教えたいといような相談がありまして、広報に載せたり会場を設定したり、この会館で発表会ができるレベルにまでおやりになったという方もありました。そういう教えたり学びたいという思いに対してはできる限り、そのホームページを見ればわかるわけですけれども、そっちを見てということではなくて、きちんと教えながら、事例を紹介したりなどやってきているところでございます。

(石橋議長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(佐々木(勝)委員) 私が今回の資料を見て注目したのは、4頁のですね「市民が生涯を通じて学び広い視野を持って活動するまち」という目標を達成するにあたって、5頁の中段のあたりに生涯学習を行っている人の約6割が60歳以上であり、30代から50代が各1割と、問5の(6)、「問5に「ない」と答えた人」で、これを見ると現職の方々の生涯学習に参加する人は非常に少ないというですね、このところにやはり注目すべきではないかということを思いました。今、職場で企業内教育ということは非常に少なくなってきておまして、将来、生涯学習をするというそういうふうなものがなかなか見つけにくいような状況にあるのではないかと考えており

ます。そういう中で、生涯教育、これをしていくにあたって、こういう現職の人たちが、将来生涯学習として学び続ける、そういうふうなものメニューとしてやっていうことも重要ではないかと、そういうふうなことで6頁のところも、基本施策のところ、1番(1)にあげてある多様なニーズ・ライフスタイルに応じた講座の開設というところに期待しているんです。そういう現職の人たちも仕事だけじゃなくて生涯にわたって退職後も続けるような、そういうふうなものを得るような機会の場であればいいなと、こんなふうなことを思って非常に難しいところではないかと思いますが、今回ここにあげていただいた「ニーズ・ライフスタイルに応じた」というところで考えておいてほしいなと、こんなことを思いました。

(石橋議長) ありがとうございます。生涯学習に参加者が少ないというふうな意味のご質問だったように承りました。この点についてはいかがでしょうか。

(事務局：市川課長) やはり60歳以上がですね参加者が多いというのはアンケートを見てもそのような状況です。現役で働いている方々のニーズはないわけではないのですけれども、やはり参加できないということを踏まえまして、いろいろ検討し始めておりまして、今もあります、夜に開催するのはどうかということを考えておりますし、今講座すべてシリーズで5回なら5回通して参加する、10回なら10回参加するといやり方をしておりますが、単発の講座、例えば通年で講座に出席しなくてもいい、バラバラでもいいというのをできないかなども検討しています。ただ、この日講座を開催しますと開いたけれども誰も来なかったというわけにもいかないので、出欠はとらなければならない。ただ、一つずつそれを取るかどうかなどもございますので、そのあたりを考えながら若い人たちも参加できるようなものできないか検討しているところです。

(石橋議長) ありがとうございます。検討中ということでありました。他にございますでしょうか。

(伊藤(晴)委員) 何回もすみません。私はどうしてもこの素案を見てひっかかったのは、1頁目の下の図の花巻市生涯学習振興計画の3つの柱なんですよ。1番目はもちろんそのとおりでいいですし、なぜ2と3が出てきたのか。私はですね、例えば生涯学習の基本である家庭教育といいますか、ないんです。ここに。私は家庭教育は生涯学習の基礎だととらえていますし、学校教育も生涯学習の基礎であると。そこが落ちている。それからアンケートを見ると圧倒的に生涯学習の希望が多いのはスポーツ、健康なんですよ。つまり、より健康で豊かな生活を過ごしたいとそういうふうな学びの場がほしいという。これを見るとそれが無い。で、よく見たらこの図、人づくり分野の1から5まですべてが生涯学習じゃないかと。で、子育て環境、いわゆる家庭教育、学校教育は生涯学習の基礎である。スポーツ振興、これは試合に勝つためだけではない、もっと市民の一般の人にスポーツを広くすすめる。やりたくても指導者がいなければどうしたらよいかわからない、それを支援するのが生涯学習。芸術文化もましてやそうですよね。生涯学習の根本ですよ。したがって私はどうしてもやっぱり人づくり分野そのものが生涯学習ではないかと。私はそう理解してきたし、10年前関わった時にもそう思ってきたし、これはしたがってどうも理解できない。たとえば青少年教育についてもじゃ何を書いているかというとな非行防止とかですねもっと地域と青少年をですね、例えばあいさつ運動を声をかけあうとか、それだつて立派な生涯学習の子どもを非行から守る運動の一つであると、地域の温かい目で子どもたちを見るという目であると思うので、私はこれではやっぱり納得できません。5年間の計画ですから、ここで決まってしまうと、そのとおりいきますから、果たしてこれでいいのかと、私はそう思っております。皆さんどうでしょうか。

(紺野(佳)委員) すみません。関連質問で。

(石橋議長) 関連質問ですか。紺野委員さん。

(紺野(佳)委員) 実はですね、花巻市まちづくり総合計画の市民会議に私、関わりました、人づくり分野について相談したり話し合ったりするところにいたんです。一年間。その時に話し合われたことは、今、伊藤さんがおっしゃったように、子育ての段階の方々、学校に入った父母たち、それから青少年、いろいろな年代の方々が一緒になって生涯学習というのを頭に入れながら教育をするということで、どうしても花巻の場合は、つながりが欠けている。幼児にあたっている親たち、小学生の親たち、段々つながりがないので、生涯を見通したそういう教育が必要ではないか、人づくりが必要ではないかということが実はこの人づくり分野で非常に強調されたんです。今回、これを見たら、そこのところを取り除かれている。自主的活動と3本柱になっているので、私も大変この経緯について疑問がございます。やっぱり生涯にわたって考えるべき芸術文化があるわけです。何かこの5項目を消してしまってよかったのかなあというふうな考えを持っております。それから、先ほど図書館の館長さんの話ができましたけれども、これは図書館だけではないと思うんです。いろいろ芸術文化の施設、それからスポーツ関係の施設のトップにあたる人が生涯学習ということの考えで市民と対応してくれなければ、やっぱり生涯学習は進んでいかないのではないかという感じです。ちょっとまだこの5項目で足りないのは、今、いろいろところで言われている防災教育と減災教育も生涯にわたっての教育が大切ではないかと言われているわけなんです、それは花巻の場合はどこでやるのか。生涯にわたっての大事な教育。釜石などの例を聞かせていただく機会もあったのですが、これは本当に生涯学習です。それを花巻の場合はどこで行われるのかなという疑問があります。この3本だけでいいのかなという疑問があつてならないです。

(石橋議長) ありがとうございます。伊藤委員さん、それから関連質問として紺野委員さんが発言されましたけれども、これについてお答えをお願いいたします。

(事務局：市川課長) 私も、家庭教育は生涯学習の基本になるものだと思います。ただ、総合計画においてこういう分類をしております、家庭教育、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術文化を含めて生涯学習振興計画にしますと、この教育振興基本計画と同じになってしまう、というところがあります。そういう部分では悩みまして、教育振興基本計画も今作っております、同じように教育委員会でも審議しているところです。そちらには生涯学習の部分も含め今回の会議なども踏まえて、書き込んで整合性を図っていくということでやっております。実はスポーツについては、スポーツ振興計画というのを今同時にたてているところでございます。今日のご意見を踏まえましてこちらの方で考えたいとは思いますが、その教育振興基本計画上で書かれている家庭教育もちろん学校教育も生涯学習には広い意味では含まれるわけでございますし、そのあたりを教育振興基本計画との整合性を図っていくようにしようと思っております。

(石橋議長) 伊藤委員さん、紺野委員さんよろしゅうございますか。

(伊藤(晴)委員) 私はダブっても構わないと思うんですがね。どうしても今提案されているようになると講座を開くことが生涯学習という、あるいは団体が行う活動を支援するのが生涯学習、きわめて狭い限定的な生涯学習になってしまう心配がある。だから私はダブってもいいと思うんですよ。スポーツ振興課はスポーツ振興課

でそれなりのやつをやればいいし、生涯学習の中のスポーツというのは間違いなくあるわけですから、これがしかもニーズが最も高い、それをどうやって組み込んでいくかという。地域づくりの関係、例えば子育て支援だって家庭教育の場合は家庭に任せろではなくて、各コミュニティ単位でやっぱり事業をするとか企画するとかというのが必要なわけですから、私はダブっても全く構わない。むしろ強化をする方向に働かだろろうというふうに思います。

(石橋議長) 今、伊藤委員さんからお話しがありましたけれども、要望といえば失礼ですけども、前の意見に付け加えてと、そういう意味での発言ですね。大変ありがとうございました。佐藤委員さん。

(佐藤委員) 今、お話しを伺っていて、まさにそのとおりだとは思いますが、やっぱり生涯学習の推進計画ってすごく大変なんです。なぜかという生涯学習の考え方って途中から入ったからなんです。今までは学校教育が中心で、それに社会教育と並行してきてきたわけですが、そこに理念としての生涯学習が入っちゃったので、その歴史をなかなか動かすことはできないので、やっぱり教育委員会といえば学校教育というような、そういう現実がある中で、教育基本法の第3条に生涯学習の理念が出てきているっていうのはそういうことなんです。全部を含んでいるんです。それはわかっているのですが、現実的にどうするんだという時に、それは市町村の考え方によりますが、花巻市さんは子育て支援については子育て支援のセクションでやる、学校教育は学校教育でやる、スポーツ振興はスポーツ振興でやる、でそれ以外の社会教育及び生涯学習全体に関することは生涯学習部がやるという役割分担をされているので、その立場から生涯学習振興計画、推進計画を立てるというのは、すごくいろいろな矛盾を抱えながらやらなければならないということがあるんだと思います。ですからそれは、まず全体の体系を明らかにして、その中でまずうちが担うのはここですよ、社会教育なり生涯学習の部分ですよという前置きをしてやっぱりということが一つ必要なかなというふうに思います。先ほどから伺ってきて生涯学習に参加するという言葉がずいぶん出てきました。私ちょっとそれ、違和感を感じていて、やっぱり講座を設けることが生涯学習なのでしょうか。それだけがそうなんでしょうか。地域づくりに一生懸命取り組むことだって生涯学習の一つなわけです。ですから生涯学習って非常に広すぎて掴みどころがないっていうことなんです。だから、もっといろんな年代が、講座に参加するようにしようというのが一つの取り組みで結構なのだと思いますけれども。若い人たちだって今仕事に向かっている中で、それは生涯学習ということに関わっているわけですよ。むしろ地域活動に関わっているかどうかという視点で評価する方がいいのかもしれないけど。そういう高齢者だけの生涯学習ではもちろんあってはいけませんし、趣味教養だけの生涯学習というのもあってはいけません。だからその辺はちょっと整理をしていかなければならないかなという感じです。それで前置きが長くなりましたが、それで言いたいことが3つあるんですけども、一つ目は、難しい中で4頁に本市生涯学習の現状と課題というのが出ています。結論を言うと私はこれは項目に分けた方が良くないかと思っております。課題3つぐらいニーズにあったというのと広報活動の強化と地域における生涯学習とありましたので、それはそれで分けた方がよいと思うのですが、できれば本来的には先ほど紺野委員さんもおっしゃいましたが、目指すのは何なのか目指してきたのは何なのかというのがやっぱりなかなか欠けているというか、非常に現実的な計画になっていて夢が語られていないというか何を指すかというところが具体的に示されていないような気がするんです。ですからやっぱり実際今どういう生涯学習の姿か、姿の側面しか表されておられません、姿なのかということが全体に記述をしていくつか側面を出してその中で課題はこういうことだとか制度はこういうことだと語るべきであろうと、そしてそのために今後何をすべきかということこれから課題を3つに絞ってこれから考えていくというようなそういう展開にして記述した方がいいんじゃないかなというのが1点。それから2点目は、基本施策の方に

入るのですけれども、私ちょっとわからないのは、施策の方向というのはもちろん基本目標に貢献するのですが、基本施策はもちろん施策の方向に貢献すべきなんです、この1の生涯学習機会の充実の下に掲げている、何々するため何々します、何々するため何々します、と並べていますが、その部分何が書かれるべきなのかなということが一つあるのですけれども、それで、基本施策が出ていて、丸のレベルで「推進する」「開設する」「開設する」「実施する」というのがありますが、ここと主な事業とこれどういう違いをつけるのかなというふうに思うのです。一番顕著なのは8頁の(2)①市民の・・ふれあい出前講座を実施するとありますが、これは事業なのか。主な事業で見るとふれあい出前講座のことですよ。こういうふうにほとんどイコール事業というものと、あとは何とかを推進するという表現が混在しているんですよ。推進するのであれば、今やっている事業はこういう事業だけ、3年後にはこういう事業に切り替えてかえてアプローチするという考え方もあると思うので、その辺のどういうレベルのことを、事業を書くのか小目標を書くのか方針を書くのか、その辺、丸のところと主な事業のところの関係性をもっと明らかにした方がいいかな。もし①②の方が小目標というか、こういうことを推進するというのであれば、今考えている事業はこういうことでもう項目ごとにくっつけてやればいわけですよ。場合によっては①と④に関わる事業は出前学習フェアですことですよということであるわけですからそういう組み方をすべきだろうなとそういうふうに思います。こらが2点目。10頁の「成人式実行委員会を組織し、成人式を実施する。」これってまさにやることしか書いてなくて、何を指すのですかというところが書いてないような気がしました。それで、戻って施策の方向のところの前段のところですよ。これは大体基本施策全部を網羅して何ををはかるため、何々して、何々しますと書いていますが、本当にこういう書き方でいいのかという。私の意見は、基本目標である「市民が生涯を通じて学び広い視野を持って活動するまち」にどういう側面から貢献するのか、あるいはもっと上位目標があるというのなら、そういう本施策の方向がどういう貢献をするのかを私は書くべきではないかと。青少年の健全育成の推進もそうですし、国際交流の推進もそうですし、それを前段として書いて、そういう貢献をするために基本施策はこういうことをしますというような構成であるべきであろうなと思いました。最後にもう1点だけですが、13頁の推進体制ですが、いろいろ書き方はあると思いますが、例えば推進体制は、主だった組織や機関を明示してもいいではないかと。その関係性みたいなものを明示してもいいのではないかとというふうに思います。そしてさらに付け加えるとその中で進行管理ともかわりますが役割分担を明確にする。つまり、先ほど出ましたがコミュニティセンター内の評価と改善みたいな話がありましたが、それはコミュニティセンターがやります。そのコミュニティセンターごとを集約するのが生涯学習部ですとか、あまり細かく書くと大変でしょうがざっくりとした進行管理のうえでの役割分担みたいなのは、明確にしておけないのではないかと。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。佐藤委員さんは3点ぐらいというお話でしたが、僕は4点ぐらいになりましたが、一つは現状と課題、基本施策、それから成人式の実行委員、これは2番目に配置されていたのかな。あるいは13頁の推進の問題というふうな事柄について、佐藤委員さんは疑問を呈せられております。これについてお答えをいただきたいと思います。

(事務局：市川課長) 確かに最初の文言と2番目の基本施策そして主な事業という書き方の中でもう少しきっちりと区分けして書いた方がいいのではないかとこのころはあると思いますので、整理をしたいと思います。文言も、実施する、推進する、図る、などということも統一し、簡潔にしていきたいと思います。あと最初にお話のありましたとおりですね、伊藤委員さんからの指摘もありましたが、佐藤委員さんが言われたとおり、全体の中で、花巻市は生涯学習部門が教育委員会から離れているということもございます。人づくり分野の教

育委員会の教育振興計画だけがあればいいのかもしれませんが、生涯学習というところの位置づけもわかりしたものがほしいというところもあり、私どもでは生涯学習計画を作りたいということ考えているものでございます。本来学校教育も家庭教育もスポーツも芸術も生涯学習だということは十分認識しているつもりではありますが、そうした中で今、佐藤委員がおっしゃったような全体の体系の中で、生涯学習部門の具体的な計画はこうだということを書きたいと思ひますし、また、ほかの家庭教育や学校教育の部分も教育委員会と相談して検討させていただきたいと思ひます。あと、推進体制につきましても少し検討させていただきたいと思ひます。

(石橋議長) 先ほど挙手されましたけど、佐々木委員さん。

(佐々木(繁)委員) 1頁のまちづくり総合計画のことについて、生涯学習は広いんだからちょっと待てよ、とじっくり考えた後に出た私の結論は、もしかして各部ごとの推進体系でわかりやすいようにやろうとしているのかなというふうに思ひました。確かに生涯学習というと、所長さんが言うように幅広くてすべてなんだと思ひます。だから、逆にこの方が仕事進めやすいのかなと。一番最初に見たときはこれはちょっとおかしいかなと思ひただけけれど、そうじゃないかなと思ひたのが一点です。あと、生涯学習でもいいんですが社会教育法では社会教育団体あるいは社会教育関連団体というふうに仕分けしているのですが、やっぱりすべてが入るので本当に進めるにからは大変な事業ではないかなとこう考えるんです。そういう時考えた場合、まちづくりの総合計画は、これでいいのではないかなと私なりに結論を出したんです。最初見たときは、これはおかしいなと思ひたんですが、最終的にこれがよかったのではないかなとこう思ひました。あとはうんと小さなことなんですけれども、先ほど、現職の方の、私も講座がすべて生涯学習というのはおかしいんですが、だからそういう機会があることが大事なことで、例えば市でやっているアフターファイブ、やっぱりシリーズだと参加しづらくなるので、単発でもいいのではないかとこう思ひます。私たちの協会もシリーズで、3回シリーズでやっているんですが、事前の申し込みで3回出るのが基本だけれども、単発でもいいよという、仕事の関係でこれだけは出たいと、出たらよかったというのがあるので、やっぱりそういうシリーズ、アフターファイブ、さらに充実してほしいなど。あと富士大学さんのような講座もやっていますので、やっぱり現職の方をもう少し参加させる体制、現実的には難しいんですけど、あってもいいのではないかなと。以上小さなことをお話ししました。

(石橋議長) ありがとうございます。市川委員さんも手を挙げてらしたのでどうぞ。

(市川副議長) いろいろな面でご意見が出されて議論もついていると思ひますけれども、実はこの生涯学習を、佐々木委員さんからもありましたが、多くの数限りない団体グループ、そういう中で生涯学習というものが活発に活動なさっているものと思ひます。やっぱりそういう中でいろいろこういう事業なり講座なりいろいろなものに年々、数で評価するわけではないですけども、少なくなってきたのかなということがなんとなく思ひやられます。やっぱりそういう中で、そういう団体育成とか、そういう活動家、リーダー、そういうものの育成っていうものを、どこかうたっておこなうといいのかなと、そういうことをちらっと感じましたし、以前もちょっと公民館のお話も出たことがありましたが、やっぱりそういう公民館でも地区の公民館から小さな自治公民館いろいろあるんですけども、やっぱりそういう中で活動なさる方々、これはやっぱりこう年々、一口には言えないと思ひますが、衰退してきていると言えれば表現がうまくないかもしれませんが、そんな感じもしますので、いずれそういう団体なりクラブなりそういう活動を先に立ってやってくれる方々の育成強化っていえばいい

いか、そんなものをどこかで取り上げなければならないところではないかなとちょっと感じましたので申し上げておきたいと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。市川委員さんは団体等の先導者といいますかそういうふうなものの育成についての話をさせていただきました。他に発言されたい方、質問等ございませんか。議論を始めて2時間程度になっておりますが、特になければ締め切りしたいと思います。お忙しい中各委員さんに出席いただき、活発なご議論をいただきまして本当にありがとうございました。私の担当する部分については締めさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

4 その他

(事務局：菅原補佐) 大変ありがとうございました。次第の4番目ですが、その他でございます。こちらの方からは特にございませんが、皆様方から何かございませんでしょうか。それでは閉会にあたりまして課長の方からごあいさつ申し上げます。

(事務局：市川課長) 今日は長い時間大変ありがとうございました。たくさん貴重なご意見をいただきまして、いろいろな他の分野ともこれから協議しながらやっていきたいと思っております。極力いいものを作ろうと考えておりますし、皆さんのご意見も踏まえながら直しを入れたいと思っております。今後の予定といたしましては、1月29日からパブリックコメントをホームページに出したいと考えております。それまでにどこまで直せるかという点はあるんですが、1か月ほどパブコメをしたいと思っております。そこでまたご意見もあると思うので、それらを踏まえてまた最終的に3月になろうかと思っておりますけれども皆さんにご足労いただいて、最終的なご意見をいただきたいと思っております。冒頭に申し上げましたとおり、何なりとご意見等ございましたら文書でも構いません、私どもに言っていただくのでも構いません、ご意見、ご質問等お寄せいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

5 閉会

(事務局：菅原補佐) 以上を持ちまして、平成27年度第3回花巻市社会教育委員会議事を閉会させていただきます。委員の皆様大変ありがとうございました。